

巻頭言

第6回日本精神薬学会総会・学術集会の開催に当たって

第6回日本精神薬学会学術集会は、11月4日～6日東京にて現地+ライブ配信+オンデマンドのフルスペックで開催する予定です。日本生物学的精神医学会、日本神経精神薬理学会、日本臨床精神神経薬理学会と共に4学会合同の大きな大会となります。4つの学会は、精神科医療で基礎もしくは臨床に関わる学会で、テーマとして「心」につながる基礎と臨床の架け橋を掲げました。大量かつ充実したコンテンツが用意され、参加される先生方は聴講演題を絞りきれないという贅沢な悩みを抱えることになりそうです。

現地に赴いて旧交を温めるのもよし、ライブ配信で日常生活の中でゆったり聴講するのもよし、また、大会終了後の追加のオンデマンドコンテンツで知識をさらに深めていただくなど、いろいろな角度から大会を満喫されてください。スタッフ一同鋭意努力して準備していますので、奮ってご参加ください。

第6回日本精神薬学会総会・学術集会大会長/鈴鹿医療科学大学薬学研究科・薬学部 三輪 高市

2022年度全国処方調査協力依頼

PCP研究会では、本邦の統合失調症に対する処方実態・動向を把握するため、2006年以降毎年処方調査を行っています。昨年度の調査では、78施設より入院患者のデータ(9,059例)を、53施設より外来患者のデータ(5,247例)をご提供いただきました。業務繁多にも拘らずご協力いただきました先生方、改めてお礼申し上げます。



今年度も、入院は10/31(月)、外来は10/17(月)～10/21日(金)に受診された患者について、処方調査を行います。今回、新たな調査項目はありません。参加を希望されるご施設は、メールにて事務局までご連絡ください。

PCP調査委員会 宇野 準二

次世代の精神科薬剤師を育成するために

皆様のご施設は「精神科病院に若い薬剤師が入職しない問題」に直面してはいませんか?もしも問題になっている場合、それはきっと若手薬剤師の精神科に対する理解不足や勝手なイメージが間違っているからだと思われます。日本病院薬剤師会雑誌8月号に掲載された報告のように、短い実習期間であっても本当の精神科医療を学んだ学生は、精神科へのイメージが一変し、精神科病院への就職を選択肢の一つとして考えるようになります。このようなことから、何もしないで吉報を待つよりも、積極的に薬学生や研修生を受け入れて、精神科に対する誤ったイメージを払拭させることが出来れば、入職してくれる可能性は高くなると思います。「下手な鉄砲も数撃てば当たる」の精神で、実習生の受け入れに取り組んでみましょう。当院で作成したようなオンライン教材のニーズがあれば、PCPやJSPP会員の皆様方が利用できるように検討していきたいと思っています。

顧問 黒沢 雅広

2022 年度上期の活動報告

テーマ:成人の発達障害

先生方のお名前は敬称略で記載させて頂いております。

ブロック	開催地	開催日	講演 I	講演 II	参加人数
東海	名古屋	5月25日	中村友喜 (三重県立こころの医療センター)	山田敦朗 (名古屋市立大学大学院)	195
近畿	大阪	8月21日	紀本創兵 (和歌山県立医科大学)	山本哲也 (徳島大学大学院)	153

2022 年度上期ブロック講演会を振り返って

【東海ブロック】

「大人の発達障害」に対する関わり方について、服薬指導という薬剤師の視点、診察という医師の視点から分かりやすく解説いただいた。どちらも具体的な例を示していただいたことで、当事者の話をブレない基準に照らしてよく聴くこと、家族など周囲を含めた関わりが重要であることなど、共通する点が多いことが印象的であった。

東海ブロック世話人 宇野 準二

【近畿ブロック】

近畿ブロックでは、和歌山県立医大の紀本創兵教授と、徳島大学の山本哲也准教授に講演していただきました。とても興味深い内容で、特に山本先生の講演は、普段あまり聞く機会がない臨床心理士からのお話で、患者様と関わる際にとっても参考になるお話でした。参加者の皆様からの評判も良く、充実した講演会となりました。

近畿ブロック世話人 宮原 佳希

修正型電気刺激療法(m-ECT)のスキサメトニウム問題を考える

精神科医療で重要な療法の一つに修正型電気刺激療法（以下m-ECT）があり、その施行には筋弛緩薬の投与が必要となります。筋弛緩薬のスキサメトニウム注は「精神神経科における電撃療法の際の筋弛緩」の適応を持ちm-ECTには欠かせない薬です。

しかし、現在スキサメトニウム注は原薬製造所の行政処分を受けたことが原因で、出荷調整となっており、さらに一時供給停止となる可能性があるとの事です。そこで、スキサメトニウム注に変わる筋弛緩薬の使用を考えなければならなくなりました。

代替えとしてはロクロニウム臭化物静注液の使用が考えられます。ただし、スキサメトニウム注に比べ手順が多く、自発呼吸を促すために拮抗薬の使用が必要であるなど注意する点いくつか存在します。現場の看護師からも、「準備に時間がかかるようになり注意する点が増えた。」との意見がありました。

より安全な医療を提供するためにも、スキサメトニウム注には早く通常発注に戻ってほしいと願っています。

北海道ブロック世話人 志田 雅彦



病院紹介コーナー 医療法人社団長久会 加賀こころの病院

加賀こころの病院は金沢駅より50km南の加賀温泉駅の近くにある精神科単科病院です。北陸新幹線の金沢―敦賀延伸にともない開設以来50年以上親しんだ幸町より現在の場所に4年前移転しました。幸か不幸か新幹線のおかげでここ10年の間に2回の建て替えとなりそのたびにスリム化し、現在は急性期治療病棟（40床）、精神科療養病棟（57床）、精神科病棟（合併症）（45床）、認知症病棟（42床）の184床となっています。病院中央のガラス張りのディルームからは綺麗で大きな田園風景、そして奥に白山連峰を見ることが出来とても癒されます。当院は1966年南加賀の地に精神科医療を普及する



という志のもと「加賀神経サナトリウム」として開設されました。当時はまだ精神衛生法の時代で、精神医療におけるガイドラインも乏しく、目の前にある問題をその場で解決しなければならない時代であったようです。その後制度は変わってきましたが当長久グループでは時代に先駆け福祉法人が設立され医療と福祉の両輪で活動を広げ、授産施設やグループホームなどに早くから取り組み精神障害者の社会復帰に力を注いできました。また、認知症問題にも早くから取り組み、南加賀認知症疾患医療センターや認知症対応型グループホームなどを開設してきました。認知症に関する講演会も多く行っており認知症になったら「こころの病院へ」と思っている方も多いようです。最近のデータでは新患及び入院患者さんの75%が市内の方で、市民の50人に1人は当院に患者として関わっていて、市民のための病院とも言えます。

薬剤部は薬剤師4人で構成され、薬剤師1人が1病棟を担当することになっています。入院時の持参薬管理から心理教育やモニタリング、退院時指導、薬剤サマリーの提出まで一貫して担当しています。今回の建て替えにあたり散薬調剤ロボットや一包化錠剤監査支援装置など出来るだけ機械化をすすめる病棟業務に時間を割けるようにしました。まだ十分とは言えませんが、今では病棟における薬剤師の存在はごく普通のことになっています。

また、薬剤部の業務として、診察室に並列したお薬相談室にて退院後初回受診時に薬剤師が診察前に「服薬状況」「身体状況」「どうしても伝えたいこと」などを把握し診察につなげています。必要時には診察に同行することもあり、患者さんや医師からこの業務に対して良い評価をいただいております。

薬剤部の今後の課題として、薬剤管理サマリーやトレーシングレポートなどの連携の方法（例えばスラックなど）の検討、また電子処方箋への関わりが挙げられます。

忙しく業務に追われる日々ですが、この点を積極的に取り組んでいきたいと思っております。

医療法人社団長久会 加賀こころの病院 中川 将人

「公競規」について調べてみました！

皆さんは「公競規（こうきょうき）」という言葉を目にしたことがありますか？正式名称は、公正競争規約と言って、不当な顧客の誘引を防止し、一般消費者による自主的かつ合理的な選択及び事業者間の公正な競争を確保するために、消費者庁長官及び公正取引委員会の認定を受けて自主的に設定するルールと記載されています（公取協 HP）。簡単に言うと、公正な取引を行うために、製薬業界とメーカーが自主的に定めたルールと解釈できます。以前は、メーカー主催の講演会でメーカーの製品をリスペクトしたり、他社製品をディスる発表がありました。最近ではスライドチェックでボツにされることが多くなりました。また、司会や演者などの役割者へのサポート（謝礼など）は認められていますが、グループワークなどのように、全員が役割者となるような場合や自由なディスカッションで上記の波線部を逸脱することが想定される場合には、会のサポート自体をNGにするメーカーも増えています。

メーカーさんとの関係は大切にしたいところですが、時代に合った形で協力し合う必要がありそうです。

顧問 黒沢 雅広

2022 年度下期ブロック講演会開催(予定)のご案内

テーマ:「双極性障害における薬物治療について」

ブロック	場所	開催日	配信会場
九州・沖縄	沖縄	11月28日(月)	ピーススクエア 5階 会議室 A
中国・四国	岡山・愛媛	2月5日(日)	大塚製薬 岡山出張所 / 愛媛県民文化会館

※ WEB 形式にて開催となります。都合により変更となる場合がございますので、詳細は PCP 研究会ホームページの活動状況欄をご覧ください。

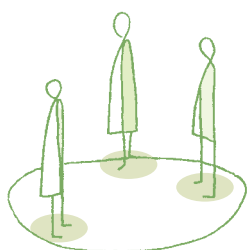
2023 年度ブロック講演会について

講演会の開催にあたっては、様々なルールやその時々の流れに対応しながら企画を行います。前号のニュースレター (No.31) に報告がありましたが日本薬剤師研修センターの単位申請についてもその大きな流れのひとつでした。

そして先の記事にも触れられていますが「公競規」にも対応することとなり、2023 年度のブロック講演会ではこれまで活動の大きな柱であったグループワークを行わないことを世話人会にて決定しました。今後のグループワークの実施については日本精神薬学会にて検討されます。また、講演会の開催回数も年 4 回から上期 1 回、下期 1 回の計 2 回に減ること、会費を徴収せず実施することも決定しています。

当研究会でグループワークが行われなくなるのは一参加者としても大変残念です。グループ内で与えられた課題を議論することはもちろん大事ですが、発表や休憩の合間のちょっとした会話や課題の本筋から逸れた話題なども実は大事な情報であったりと、Web 会議ツールではできない、直接顔を合わせるからこそできる大切な空間がそこにはありました。このような積み重ねが精神科薬剤師の横のつながりを育み、学会設立の礎が築かれたものと感じています。

これまで大変貴重な場と多くの時間を提供していただきました大塚製薬さんに心より感謝申し上げます。
東北ブロック世話人 谷藤 弘淳



事務局 掲示板

■ 2022 年度会費 (2022 年 4 月～ 2023 年 3 月分、年会費 : 3000 円)

年会費は、ゆうちょ銀行に備付けの振込用紙にてご納付ください。未納の場合、WEB 講演会での単位シール等の取得が出来ない場合がございますのでご注意ください。参加される講演会開催前までにお振り込みにてお願いいたします。

【郵便局】口座名: 精神科臨床薬学研究会 口座番号: 00170-2-578959

* 通信欄に、必ずご施設名、お名前、会員番号をご記入ください。
(会員番号が不明な方は、メールで事務局 (contact@pcp-rg.org) へお問合せください。)

■ 講演会プログラム

講演会開催日 1 ヶ月前を目処に各講演会プログラムをホームページ < www.pcp-rg.org > に掲載しております。

■ 特別講演 DVD

2019 年度下期以降の DVD はございません。バックナンバー (演題はホームページに掲載) の貸出しを希望される方は事務局までご連絡ください。

■ 事務局連絡先

〒113-0031 東京都文京区根津 1-4-4 河内ビル5階
株式会社青海社 内

E-mail : contact@pcp-rg.org (メールには必ず、1. 施設名、2. 氏名を記載して下さい。)

FAX : 03-8532-6172 URL : http://www.pcp-rg.org/

【編集後記】

中学生の娘にワンピースの映画が観たいと言われて、一緒に観に行きました。キャラも 5、6 人ほどしか知りませんでした。キャラは知らずとも、クライマックスにはジーンときていました。いずれ娘と映画館に行くこともなくなるのだろうか、まだ生暖かい秋風に吹かれながら、ふと寂しくなったりする今号の編集後記担当者でした。

(K. K.)